

Reading Seminar #7: Spring 2024

伊藤亜聖『デジタル化する新興国：先進国を超えるか、監視社会の到来か』

荻谷 千尋

2024-03-25

kariyach@staff.kanazawa-u.ac.jp



I. はじめに

0. お願い

お願い

- ・受講生のあいだでの意見交換、話し合う場合は、できるだけビデオオンにしてください

1. 本日のスケジュール

前半

- ・14:00 趣旨説明と目標
- ・14:15 自己紹介
- ・14:20 **意見の共有**

休憩

- ・15:10 休憩（15分）

後半

- ・15:25 **紹介文の作成**
- ・16:45 まとめ
 - 高大接続プログラム「大学での学び」レポート
 - アンケート
- ・17:00 終了

2. 自己紹介：荻谷

- ・専門：政治思想史
 - 18世紀イギリスの議会政治；レトリック受容
- ・最近の興味関心
 - データの可視化

3. 趣旨説明

1. 高校生向けに書かれた良書があるものの、高校生に読まれていない
2. 大学での学びをイメージしてもらいたい

- ・ゼミでの輪読
 - Cf. 研究者(大学教員)も輪読している
 - 1冊の本、論文を全員で読み、内容を共有、評価する
- ・ Cf. ビブリオバトルとの違い「競争ではない」
- ・ Cf. 静かな流行「読書会」

わたし自身が高校生だったころのことを考えても、本を読んで感想を言えと迫られて、いったいどれほどのことが言えたでしょうか。本からなにかを読みとり、それを切り取ってきて言葉にできるかどうかは、ある程度、人生経験の長さに比例している。だから、中高生にとっての読書会はあくまで「お試し」であってかまわない。これから先、さまざまな経験をしたあと、またいつかどこかで読書会に参加してくればそれでいい（向井和美『読書会という幸福』（岩波新書、2022年））。

1. 正解のない学びを体験して欲しい

- Cf. 現代国語
 - 論文として紹介されているものもエッセイに近い
 - 大学で求められるレポート、論文の形式を知る

4. 入試問題

- 京都大学新聞「[解かずに読む共通テスト書評2024](#)」

1月13日、14日の2日間にわたって実施された大学入学共通テストでは、今年も様々な問題が出題された。中には受験者を大いに悩ませたものもあったかもしれない。ここでは、共テに出題された作品の書評を4つ掲載する。春を待ちつつ書評で共テを振り返ってみてはいかがだろうか。（編集部）

- **国語** 渡辺裕『サウンドとメディアの文化資源学』
- **国語** 牧田真有子『棧橋』
- **倫理** 吉野源三郎『人間の尊さを守ろう』
- **倫理、政治・経済** ヴェーバー『職業としての政治』

5. 学問

- 大隅良典「細胞の謎を解く：科学「役立つ」だけで測れず」（『読売新聞』2019年7月23日）

でもこれまでわからなかったことを知る喜び、知的好奇心こそが科学の原動力です。……役に立つという言葉が独り歩きして、役に立つとは何かを考えず、2、3年で何か応用できて製品になる、というイメージが若者の間にも広がっているように思えます。

注目が集まる領域だけでなく、誰もがまだほとんど関心を示さないことに挑戦するのも、科学の進歩のためには必要です。それには色々なことに挑戦できるような広い裾野が何よりも大切なのです。

6. 目標：紹介文の作成

紹介文（合作）の作成

1. 受講生全員の意見をできるだけ反映しよう

- 共通点の発見
- 納得できる意見の発見

1. 高校生(または同世代)に向けたものにしよう

紹介文の公開

- 紹介文は大学のウェブサイト（セミナー案内など）で紹介いたします

7. 紹介文：山口慎太郎『「家族の幸せ」の経済学』

あなたは帝王切開なんてだめ、赤ちゃんには母乳が一番、子どもが三才になるまではお母さんが尽きつきりで子育てをしないとダメ、などといった偏見やうわさ話を耳にしたことがあるだろうか。

本書は、こういった事柄をデータや研究を通して、科学的に説明している。また、筆者は人間の行動を理解し、幸せにつなげるための枠組みである経済学を通して、事案について考え、家族の幸せというものの真実をとらえようとしている。本書は、家族の成立から子育てまで各分野について章立てされ、データや科学的根拠を基に「幸せとは何か」を問うている。

客観的な視点から著されているため、現時点で自分の家庭を持っていない高校生が、本書を読み進めながら、理想の家庭像を考えられるところが良い。また、子育ての経験がない高校生であってもデータから納得できる点が多い点も、本書のよい点である。もちろん、結婚していて子供がいない夫婦や結婚する予定のある人たちにとっても、本書は良書である。というのは、子育ての方針や家族のあり方を、決めておくことで子供が産まれた後などで意見の違いから二人の関係が悪くなるのが減ると思われるからだ。

物事と向き合う時は「事実」と「神話」を見分けることが大事だということを、本書は伝えている。データ分析などの結果には大きな説得力があるのだ。データ分析にはこのような利点があるが、近年、日本の研究のデータ不足と質の低下のため、適切な統計調査が難しくなっていると著者は言う。「調査を依頼されるようなことがあれば、ぜひ、協力して欲しい」という著者のメッセージに応えていきたい。

- ・この他の紹介文は[こちら](#)

II. 自己紹介

自己紹介

1. 名前、出身地、学年
2. 本セミナーに参加した理由
3. 好きな本、お勧めの本

- ・なければ、好きな科目など、好きなことなら何でも

III. 意見の共有

1. 今回のテーマ

今回は、伊藤亜聖『デジタル化する新興国：先進国を超えるか、監視社会の到来か』（中公新書、2020年）を取り上げます（[出版社の案内](#)）。スマートフォンを筆頭に、デジタル化が私たちの生活を変えています。その行く先はどこでしょうか。本書は新興国・発展途上国が最先端技術の「実験場」であることに着目して、その可能性と危険性を探っています。ぜひ、来るべき社会について考えてみましょう。

2. 意見の共有

手順

- ・別紙「事前課題一覧リスト」に沿って進めます

1. 著者がもっとも主張したい事柄
2. あなたが重要だと考えた箇所
3. 著者の主張のうち、理解できなかった点、納得できない点、よくわからなかった点
4. この本の感想

IV. 紹介文の作成

3. 紹介文の作成のポイント

- ・字数:400-800
- ・書いて欲しいこと
 1. どんな人に読んで欲しいか(向いているか)
 2. 著者の主たる意図
 3. 読みどころはどこか
 4. 内容の要約
 5. +α(メッセージなど)

まとめ方の注意点

- ・ 順序はこの通りでなくてかまいません
- ・ この通りでない方がよいでしょう

V. まとめ

1. まとめ

新聞書評

- ・ 読売新聞（2020年12月6日）
 - 評・篠田英朗（国際政治学者・東京外国語大）
 - [リンク](#)

筆者

- ・ 三田評論（慶応義塾大学）
 - [リンク](#)
- ・ 新刊著者訪問（東京大学）
 - [リンク](#)

受賞

- ・ 読売・吉野作造賞
 - [リンク](#)

2. 高大接続プログラム「大学での学び」レポート

- ・ このプログラムは金沢大学KUGS高大接続プログラム（大学での学び）の対象です
 - KUGS高大接続プログラム（の修了）
 - ➡ 「KUGS特別入試」の出願資格要件
- ・ 締め切り：開催日(本日)から**1か月以内**
- ・ 特別入試に興味がある方は[公式サイト](#)をご覧ください

課題内容

- ・ 『題名』：「あなたが受講した個別プログラム名」
- ・ 『本文』：
 1. 「受講した個別プログラムの要約」
 2. 「受講して気づいた課題(問題)」
 3. 「その課題(問題)を解決するために必要と思われる方策」について、あなた自身の考えを根拠に基づき具体的に記してください。

注意事項

- ・ 要約はこのセミナーに参加していない者が読んでもわかるように書きましょう
- ・ 感想文にならないように注意しましょう
- ・ **受講して気付いた課題**を明確に書けるかどうかが鍵です
- ・ 課題は内容にかかわる社会的な事柄（自分の事柄ではない）にしましょう

高大接続プログラム フローチャート



フローチャート

3. アンケート

- ・ 提出先：[Google Form](#)
- ・ 締め切り：3月26日（火）23時59分